



一里塚

無所属
久喜市議会議員

田村栄子

討議資料
2020年令和2年1月

第43号

久喜市議会
会派フェニックス

連絡所〒349-1117 久喜市南栗橋 5-11-7 TEL 0480-52-8240 FAX 0480-55-1124

<https://ameblo.jp/tamura-eiko-kuki/> <http://tamura-ek2.matrix.jp/>

令和2年目を迎えまして皆様いかがお過ごしでしょうか。昨年は国内外で色々な事があり、看過できないものもありました。国が公的行事の文書を保存していないのは問題です。私自身久喜市の公文書館を時々利用し議会活動に生かしております。税金を使って仕事をした結果は、文書として保管することは当然ではないでしょうか。本市の重要課題は台風19号が教訓になった防災問題です。解決のため全力で頑張ります。

水害時 あなたならどう避難しますか？

昨年台風19号の豪雨の際、久喜市は利根川や荒川が氾濫の危機に曝されました。気候変動のもとで今後も来るとされる豪雨に備え、久喜市は市民の立場で対策を立てておく必要があります。今後改善すべき課題について田村栄子は11月議会の一般質問のなかで指摘しました。詳細は裏面を御覧下さい。下にそれらを踏まえた市の改善への動き、ならびに私の提案を記します。

避難所 スムーズな開設へ

昨年は避難所開設が遅れるなど問題がありましたが、今後「鍵の管理」を学校管理者以外に市民部でも行うなど改善し水害時の避難所開設が速やかになります。

栗橋北彩高校も校舎使用可となりました。

防災情報の伝達 改善へ サイレンも

防災無線が、風雨に邪魔され住民に十分伝わらなかった問題があったのでこれを改善。消防車による広報、メール配信、LINE、サイレンなども併用するようになります。電話応答サービス等も含め市は多様に対応します。

避難所収容能力 収容数は限られている 早めの広域避難を

各指定避難所の床面積				各指定避難所の床面積			
		収容人数(10未満切り捨て)				収容人数(10未満切り捨て)	
栗橋地区		1人1㎡として(人)	1人3.5㎡として(人)	鷲宮地区		1人1㎡として(人)	1人3.5㎡として(人)
A 栗橋小学校	1,100	1,100	310	A 鷲宮小学校	680	680	190
A 栗橋西小学校	1,173	1,170	330	A 上内小学校	2,707	2,700	770
A 栗橋南小学校	1,164	1,160	330	A 砂原小学校	770	770	220
B 栗橋東中学校	1,373	1,370	390	A 桜田小学校	2,148	2,140	610
B 栗橋西中学校	919	910	260	A 東鷲宮小学校	1,286	1,280	360
B 栗橋北彩高等学校	4,500	4,500	1,280	B 鷲宮中学校	2,581	2,580	730
合計	10,229	10,210	2,900	B 鷲宮東中学校	1,602	1,600	450
(注) A:小学校 拠点避難所 B:中学・高校ほか補助避難所				B 鷲宮西中学校	1,777	1,770	500
これらのほか補助避難所として総合運動公園第1体育館				B 鷲宮西コミュニティセンター	186	180	50
585㎡、東京理科大跡地6,422㎡があります。				合計	13,737	13,700	3,880

(「床面積」は久喜市消防防災課資料に基づく。「収容人数」は参考計算値です。)

上表で広さにゆとりのある1人3.5㎡では収容人数は少なく住民の約1-2割分です。1人1㎡では収容数が多くなりますが、立っているだけの広さで一時的避難はできますが長期滞在は困難と思われます。収容数の質問に対する市の答弁：来た人は受け入れるが、避難所はお年寄り・病人・要配慮者・移動困難な人達を優先したい。それ以外の人は早めの安全なところへの避難が勧められるのではないのでしょうか。

* 久喜市は避難所に関し市公共施設以外の内外の事業所(*)への協力要請、他自治体との連携協力(避難所、災害情報共有)を進めて欲しい。

(*) 昨年台風19号のとき東鷲宮の大型スーパーが好意により施設を部分開放し助かったという避難者の声がありました。

* 水害時避難判断の助けとなるハザードマップは見やすい地区別の水害版の作成を願います。さらにその中で広域避難で逃げる方向を示すべきです。

* 非常時持ち出し品に各自ライフジャケットの備えを。避難時に水が襲ってくることもあるのでこれは必要です。

以下は田村栄子の提案です。今後も市に粘り強く要望や質問を続けていきます。

* 自分の命を自分で守るために、災害避難時の行動計画「マイ・タイムライン」の作成を。より良いものを作るためには実践訓練は必要です。お任せではなく市主導でできるだけ多くの人に訓練の機会を設けるべきです。

* 先を読んだ早めの防災情報を

早めの避難のためには、数時間先、1日先を読んだ市独自の早めの防災情報の発信が求められます。これを議会で提案しましたが、現状では困難との答弁でした。しかし何らかの工夫はできるはずなので今後の検討を望みます。

下図は久喜市周辺の標高が高い地域を緑色で表しています



洪水時の避難方向の参考に、久喜市周辺部の標高を左図に示します。

栗橋・鷲宮地区の大部分は標高(東京湾基準)10m未満(左図赤色部分)です。他方、利根川が栗橋の近くで決壊し洪水が起こると、久喜市防災ハザードマップからは栗橋・鷲宮地区の大部分は浸水3-5mと推測されます。広域避難には余裕をもって標高の高い場所への避難が望まれます。左図の緑色の部分は標高20m以上の高い地域を示しています。

参考までに、利根川(栗橋地点)の水位0mは標高10.2mです。栗橋・鷲宮地区は標高がこれより低いところが多いようです。避難するときは避難先の状況の情報も収集し、早めの避難が交通渋滞なども回避されより安全と考えられます。



利根川左岸合流点付近の堤防工事 (2020年1月) 遠方は東武日光線鉄橋

成人式(1/12)

おめでとうございます



本図は国土地理院地図を基に独自に作成した参考マップです。公けの情報がある場合はそちらを優先して見て下さい。ご意見を賜ります。今回は皆様からの貴重な叱責・ご意見を頂き誠にありがとうございました。

田村栄子の議会質問

一部抜粋 構成

議会では、毎回皆様の声を代弁して質問しています。市民の元気につながる質問をしていきたいと考えます。「こんなこと聞いて欲しい」という方はお知らせ下さい。



令和元年(2019)年11月議会は11月25日～12月19日に行われました。田村栄子の質問(12/4)と市の回答の概要です。

大台風19号の検証・改善点は「自分の命を自分で守る」ために

台風19号(2019年10月)は関東・東北地方に甚大な被害をもたらした。本市は利根川の水位が急上昇し氾濫の危機に曝されたが辛くも免れた。しかし情報・避難・避難方法その他今後の防災上、多くの課題が浮き彫りにされたので質問する。

1 避難所の対応

(問) 避難所収容人数不足、避難所開設遅れ入れなくて困っている人が多かった。高校は3時間遅れ、交通渋滞等多数の問題も起きた。鍵の管理等今後の改善が必要。

(答) 収容人数を増やすことは困難なので、早期の避難を呼びかける。栗橋北彩高校、市内小中学校校舎も避難所開設が今後スムーズに行われるよう鍵管理等を「市民部」でも鍵を預かる方向に改善する。*栗橋北彩高校との協定を見直し水害時校舎まで使用できるようになった。

2. 早めの避難情報を

(問) 避難情報の発信のタイミングを早く。避難所収容人数不足且つ公助もすぐには期待できない現状で「自分の命は自分で守る」ためには早めの避難しかない。たとえ空振りでもよいから早めに災害予測し注意報などを発信すべき。いかがか。

*今回のように避難指示が利根川の水位が危険水位に達してからでは避難には遅過ぎ、しかも夜中で非常に危険であった。

(答) 危険が迫る前に自主的に避難できる情報を市のホームページ等で提供していく。国の基準と異なる基準の独自の注意報は作成できない。

*住民の安全が第一。国の基準を踏襲しながら地域特性を配慮し柔軟に市の政治判断で独自の注意報は出せるはずである。

3. 標高の高い場所を示したハザードマップが必要

(問) 標高の高い方向・逃げる方向を明確に示した地区別水害専用のハザードマップを作成すべき。いかがか。

(答) 避難の参考用に補助的なリーフレットを考えている。

*加須市や古河市などは既に避難の方向を大きく示したハザードマップが市民に配布されている。

4. 情報伝達方法の改善を

(問) 防災無線が風雨に邪魔され聞き取れない。サイレン、半鐘、その他住民がわかるように改善を求める。

(答) 伝達法改善のためサイレンは使用する、他の方法も検討。

5. マイ・タイムラインの作成訓練が必要

(問) 自分で考えて災害情報をもとに避難計画をつくり行動をするマイ・タイムライン(自分の災害時行動計画)作りの訓練を市と市民で行うことが必要。慣れておき実践の災害時に的確な判断をするためである。いかがか。

(答) 市民の皆様が危機管理を持ち、避難情報をもとに自分自身に合った行動計画を具体化することを周知していく。作成者によるシミュレーションを提案していく。

6. ライフジャケットの備えを

(問) ライフジャケットは水害避難時携帯に必須、考えは。

(答) ライフジャケットは非常時持ち出し品に入れる必要はない。

先に避難するので――

*ライフジャケットは避難時に水に襲われたとき2次災害を防ぐために絶対に必要です。防災講演会などで推奨しています。

7. 避難所の管理は市民との協働パートナーシップで

(問) 避難所の管理は市職員では限界がある。スムーズな運営のためには市と市民の協働パートナーシップが必要ではないか。

(答) 避難所の開設から閉鎖まで多くの仕事があり、避難者の皆様の協力なしにはできないので、今後そのように行いたい。

8. 広域避難の早めのよびかけを

(問) 東京都の0メートル地帯の5区は住民250万人を水害予想時点より早めに区外に避難することをハザードマップで強調している。久喜市もすべきである。いかがか。答弁なし。

済生会栗橋病院の移転問題

- 移転後の現在地での医療体制は

(問) 済生会栗橋病院は加須市に移転し、304床と26診療科の済生会加須病院となる。移転後栗橋地区の地域医療を補うためにも診療所集合体の誘致が必要。市は病院側に住民の立場に立ち地域医療の考えを示すべき。また市の要望を病院に伝えてあるとのことだが、その後いかがか。

(答) 利根医療圏の会議(2019年11/19)を経て栗橋地区には病床は残らないの判断となった。今後こういった方策があるかしっかり考えたいとの病院側発言である。今後状況をみて、具体的提案がなければ期限を決めて協議することを考えざるを得ない。

地球温暖化防止の啓発を

(問) 地球温暖化が進み気候変動に伴う異常気象により、自然災害が頻発するようになった。気温上昇を産業革命前から2℃上昇未満に抑えるパリ協定から離脱宣言をした国がある中で、日本を含め参加国が努力せねばならぬ現状で久喜市はどのように進めようとしているか。

(答) 地球温暖化対策実行計画を設け、市全体で令和12年度までにH25年比で28%削減目標を定めた。従来の施策に加え令和1年度から電気自動車・プラグインハイブリッド車に補助金を出す制度を開始した。今後も啓発に努めていく。

プラスチックごみ削減へ

(問) 海洋汚染防止は地球規模で行うべきでEU欧州連合は2021年までに使い捨てプラスチックの流通を禁止方針であり日本は2020年7月までにレジ袋有料化義務化の方針との報道がある。久喜市の取り組みは。マイバッグの推奨啓発の成果は。またストローを紙製への変更推奨はいかがか。

(答) 国の動向を注視し啓発していく。マイバッグ使用は市民アンケートの結果85%であった。ストローは紙製などはまだ割高。水筒やタンブラーの使用なども周知していきたい。

暮らしと政治を結びます！